

若い太陽の塔と対立の交差点



犬山フルまちミュージアム2025企画展

TARO EXPLODED

2025.10.12 (Sun) - 11.30 (Sun)

TALK EVENT 11.1 (Sat)

日本モンキーセンター

INUYAMA FULLMACHI MUSEUM 2025
at Japan Monkey Centre

TARO EXPLODED

若い太陽の塔と対立の交差点

2025.10.12 (Sun) - 11.30 (Sun) / TALK & WORKSHOP 11.1 (Sat)

日本モンキーセンター（園内各所、ビジターセンター内特設会場）

観覧料：無料 ※別途、日本モンキーセンターの入園料が必要となります。詳しくは、日本モンキーセンターのホームページをご覧ください。

開催時間：10月30日まで10:00-17:00、11月1日から10:00-16:00 毎週火曜日は休園日

アクセス：愛知県犬山市犬山官林26（名鉄犬山駅から路線バスで約5分）

犬山の遊園地「日本モンキーパーク」の現在の場所に再建されてから50年となる岡本太郎の《若い太陽の塔》。大阪万博の前年1969年に「日本モンキーセンター」現在の動物園側に設置、8ヶ月で撤去、1975年に遊園地側で再建という歴史を持ちます。本展では、日本モンキーセンター内に点在する塔を眺められる絶好のビューポイントを借景の形で屋外展示するとともに、塔が見つめてきた半世紀を写真や資料でたどります。11月1日には、特別企画として、アート・認知科学・霊長類研究の専門家によるトークイベント、ビューポイントをめぐるエクスカーション、子ども向けアートワークショップ、ニシゴリラタロウのおやつづくり体験を実施します。

空間構成：戸田祐希利 Yukitoshi Toda（暮らすひと暮らすところ代表／プロダクトデザイナー）



大杉浩司 Hiroshi Osugi

元川崎市岡本太郎美術館キュレーター

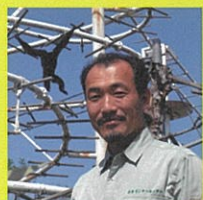
多摩美術大学大学院修了。岡本太郎美術館に勤務し、展覧会を数多く手掛けた。全国の岡本太郎のパブリックアートの調査研究を続ける。
著書「岡本太郎にであう旅」



齋藤亜矢 Aya Saito

京都芸術大学教授（芸術認知科学）

東京藝術大学大学院美術研究科修了。芸術する心の発生を、進化や発達の視点から研究している。著書「ヒトはなぜ絵を描くのかー芸術認知科学への招待」



高野智 Tomo Takano

日本モンキーセンターエデュケーター

京都大学学術調査隊の一員としてケニアでヒト上科化石の発掘調査に従事し、運動器の機能形態を研究してきた。霊長類や霊長類研究と市民との橋渡しに取り組んでいる。

モデレーター：林美里（日本モンキーセンター学術部部長・中部学院大学教授）

<特別企画>ミュージアムトーク&エクスカーション

「プリミティブ。表現・創造の根源」

若い太陽の塔を出発点として、岡本太郎、パブリックアート、芸術認知科学、霊長類研究などの多様な話題を交差させながら、「プリミティブ」をキーワードに、表現する身体・応答する社会の間に潜む、創造の起源を考えます。トークの後は、閉園後の園内で非公開ゾーンも含めて若い太陽の塔のビューポイントを巡るエクスカーション（体験型見学会）も開催します。当日は、関連書籍の販売、フルまちミュージアム関連グッズも販売します。

日時：11月1日（土）13:30-17:00

開場13:00 開演13:30-15:30 エクスカーション 15:45-17:00

料金：1,500円（高校生以上、中学生以下無料）

定員：100名

場所：日本モンキーセンタービジターセンター内レクチャーホール

※日本モンキーセンターの入園料が別途必要となります。



←トークイベント予約サイト

左記のQRコードから
Peatixサイトへお進みください。

Peatix
ピーティックス

同日開催の関連イベント（日本モンキーセンター園内）

造形ワークショップ“つくるじかん” 13:00-15:00

「ヘンテコになって、ヘンテコを生み出そう」

ファシリテーター：池田育望（愛知中学・高等学校美術教師）

定員：30名（対象：6歳から大人まで）

料金：2,000円（材料費を含む）

※定員に達し次第、受付を締め切ります。



←アートワークショップ予約サイト

QRコードから、古本屋かえりみちサイトへ
カテゴリ→チケットよりご購入ください。



日本モンキーセンター主催イベント 11:00~11:40

「ニシゴリラタロウのおやつづくり体験」

定員：10名（対象：3歳以上）

料金：1,000円

※先着順。当日10時よりビジターセンターインフォメーションで受付。

※ニシゴリラがおやつを食べている様子はどなたでもご覧いただけます。



フルまち
INUYAMA FULLMACHI MUSEUM

